

## 平成24年度特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド事業報告

平成24年度事業について、定款の項目に従い成果を総括すると次のようである。

### ① 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業(定款第5条(1))

登録サークルは23サークルで、1サークル減となった。育児サークルのつどい、サークル交流研修会を開催し、会員同士の交流と学びの場を提供した。サークル訪問やリーダーとのやり取りを基に個々の育児サークルの現状を知り、きめ細やかな支援を行った。会員数が減少して存続が難しくなったサークルに対し、会員募集や問い合わせへの取り次ぎ、運営の補助などを行った。場所によって地域の協力が得られるようになったことは成果である。反面、仕事を持つ親が増えたこと等、サークルの変化に対応した支援方法を模索した。

みはらしの丘「ミュージアムパークはらっぱ館」では、指定管理事業者と委託契約を結び、講座事業や子育て支援事業を実施した。みはらしの丘で活動と運営の基盤作りを3か年間支援し、23年から登録サークルとなった「マーブル・チョコレート」を継続して支援した。(蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務)

育児サークルの活動場所の中心である公民館やコミュニティセンターとは、親子事業や家庭教育関係事業において連携することにより、職員との協力体制が形成されつつある。さらにその地域の育児サークル、地域住民との交流が継続的になった。(家庭教育支援者活用業務)

村山地区子育てサポートネットワーク協議会は、当法人が会長を務めて二年目、置賜地区の協議会には、置賜担当スタッフが参画し、ネットワークでの活動を継続した。子育て支援団体と子育て支援担当行政機関が情報を共有し、官民協働で子育て支援の環境づくりに取り組むもので、研修会等を開催した。

### ② 保育事業(定款第5条(2))

保育事業は、コーディネーター担当に常勤職員をあてて、基盤整備を図った。保護者が安心して預けることができるよう、安定したチーム力、衛生管理、保育者と主催者とのパイプ役を務めた。山形市のレディース健診は託児付きの回が拡充され、子育て中で健診を受けにくい母親の受診が促進され、保育内容に対しても高い評価を得た。保育依頼が集中すると保育者の人数確保が難しくなることがあり、保育者の増員を図ったが十分ではなく、今後の課題である。

地域での会員制の預かり活動(病児・緊急預かり対応基盤整備事業)は、村山総合支庁の委託事業から平成25年度の山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業受託につながった。

一時預かりでは、『子育てランドあ〜べ』『託児ルーム』の利用者数は、昨年比109.5%となった。「すたーとクラス(同年齢の子どもを週一回で数回にわたり約3か月継続的に預かる保育)」に取り組み成果があった。(山形市子育て支援施設子育てランド運営事業)

山形市の家庭的保育者基礎研修、同現任研修を受託し、23年度に続いて充実した内容の研修

を企画・実施できた。

ここ数年、スタッフから認可保育所管理職・職員を輩出し、団体の活動が、保育士のキャリア形成の場としても機能している。

### ③ 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業(定款第5条(3))

ホームページによる情報提供では、担当者を配置し月1回程度の編集委員会を持ち内容の充実に取り組んだ。マニュアルを作成し、情報の更新、ブログによる情報発信も頻繁に行った。ホームページにより情報を得たことによるあ〜べの利用や各種事業の参加、問い合わせが増えた(子育て応援情報発信事業)。東日本大震災における避難家庭支援のための活動を「ままカフェブログ」とし、ひとり親家庭のためのページ(ひとり親家庭交流促進事業)を設けるなど、コンテンツを拡充した。ケータイメルマガ配信は毎月1、15日定期的に発行した。お知らせ版「みんなであそぼ」は内容を見直しvol.85号を最後に、あ〜べの情報紙「あべあべあ〜べ」としてデザインを含め1月からリニューアルした。配布先の見直しも行い、毎月1,900部を山形市近郊の公民館、図書館、子育て支援施設等で配布した。「あ〜べ」の「ひろば通信」は毎月、「託児ルームだより」は季刊で発行した。

育児サークル会員向けの会報紙「パンセ」はページ数を減らして毎月発行した(家庭教育支援者活用業務)。

また、「ホームスタートやまがた」のパンフレットを製作、配布し周知広報に努めた(先輩ママの家庭訪問支援事業)。

### ④ 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業(定款第5条(4))

人材育成関連では、女性の自立に向けての支援活動、地域の子育て支援力の向上のための講習会等を行った。

育児サークル交流研修会では育児サークルリーダーの育成を図った。育児休業中の母親講座は、母親の職場復帰の第一歩となるよう講義や話し合い等により学んだ。

「子育て支援者養成講座」は各所で合計8回開催し各地で子育て支援者の育成を図った(酒田市・新庄市・山形市・長井市は子育て支援者人材育成事業、山辺町・村山市は地域子育てサポート基盤整備事業、大江町は町委託事業により開催した。さらに山形大学と連携して山形大学でも1回開催した)。

最上・置賜地区で地域子育て支援拠点事業職員研修、山形市で地域子育て支援拠点事業応用研修をおこなった。また、子育て支援団体向けに、先進的な取り組みとしてホームスタートの普及講演会(天童・南陽)を行った(子育て支援者人材育成事業)。

平成23年度より実施している「訪問支援者養成講座」では、家庭を訪問して子育て支援をする活動者を育成した。さらに育成した人材は、ホームスタート・ビジターとして家庭を訪問して活動しており、活動のフォローのための交流会は互いの学びの場となった(先輩ママの家庭訪問支援事業)。

#### ⑤ 調査提言事業(定款第5条(5))

先輩ママの家庭訪問支援活動については、ホームスタートジャパンのシステム QISS に基づき、全国での統計にデータを提供した(先輩ママの家庭訪問支援モデル事業)。

避難家庭の現状を知るため、福島市・郡山市・白河市周辺に居住する乳幼児の保護者、及び福島県から山形県内へ避難中の乳幼児の保護者に対してアンケート調査を行った。福島では、福島県の NPO 法人「ビーンズふくしま」(東日本大震災中央子ども支援センター福島窓口)を通して複数の子育て支援団体・施設の利用者から回答を得た。山形では、当団体の避難家庭支援の活動に参加した親の名簿により郵送し、回答者から郵送により回答を得た。調査は渡辺顕一郎日本福祉大学教授、山根純佳山形大学准教授とともに行い、山形の調査では避難家庭向けに質問を追加した。調査票の配布・回収期間は 2012(平成 24)年 6 月 1 日～7 月 10 日。配布数は 622 部で回収は 353 件(回収率 56.8%)。調査結果は活動の方向性を考えるうえでたいへん貴重なデータとなり、全国紙でも取り上げられた(東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金)。アンケート調査に続いて、年度末にはヒアリング調査を計画し、25 年度も継続して調査研究をしていく計画である。

#### ⑥ 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業(定款第5条(6))

センターの設置がない最上地区についてファミリー・サポート・センター立ち上げのコンサルティングを行い、NPO 法人はぐくみ保育園において「最上ファミリー・サポート・センター」設立の支援を行った(子育て支援者人材育成事業)。平成 22～23 年度に開設を支援した大江町ファミリー・サポート・センターでは、町より委託を受け講座を開催した。

県内のファミリー・サポート・センターへの支援としては、アドバイザーの研修会及び交流会を開催し、課題解決やセンター同士の顔の見えるネットワークづくりを図った(地域子育てサポート基盤整備事業)。

最上・置賜地区で地域子育て支援拠点事業職員研修、山形市で地域子育て支援拠点事業応用研修をおこなったことで、研修機会が少ない市町村の地域子育て支援事業の底上げができた(子育て支援者人材育成事業)。

#### ⑦ 子育て支援施設の運営事業(定款第5条(7))

「子育てランドあ〜べ」は平成 14 年に開設されてから満 10 年となり、10 周年を意識して運営を行った。利用者数は、親子ひろばは前年並み、託児ルームは増加した。避難家庭の利用もあり育児等の情報提供に配慮しつつ、山形の親子に対するのと同様の対応をした。「おやこ広場」では、多様なボランティアの受け入れやシンシンの会(ひとり親家庭交流促進事業)に取り組んだ。あ〜べでの集団保育「すたあとクラス」は、2 クラスを 3 クール実施した。就園につながる継続的な保育について内容の充実を図った。商店街との連携として、ナイトバザール時

の託児ルーム開設時間の延長を恒例として実施した。行事や企画については利用者とともに活動できるようにと考え、読み聞かせや歌等の協力を得ることができた。

講座では、再就職応援を意識したパソコン講座や土曜日開催の講座を実施した。マタニティママ、プレパパ、孫育て中の方対象の講座は実施できなかった。同じビル内にある「やまがた文化センター」の事業に協力し、山形県離転職者等職業訓練事業の託児サービスを担当し、再就職や母子家庭の母等の就業を支援することができた。

相談事業は昨年度同様に実施した。

諸事情により余裕のあるシフトや職員体制をとることが難しかった。一部のスタッフに負担が偏ることのない環境整備が必要だ。

### ⑧ 子育てに関するイベント事業(定款第5条(8))

『子育て応援団 すこやか2012』(山形放送主催)は6度目の連携事業となった。あ〜べの出前広場とし、通常のひろばと同じ対応とした。

### ⑨ その他会の目的達成に必要な事業(定款第5条(9))

23年度に引き続き山形県「山形みんなで子育て応援団」の実践活動の1つとして、保育士等の有資格者を子育てマスターズとして登録してもらい活動のコーディネートをした(子育てマスターズ登録・派遣業務)。

平成19年からあ〜べにて継続している「高校生のパパママ体験」では、村山管内4校17名の高校生に乳幼児や保護者とのふれあい体験をしてもらった(子育て支援団体ネットワーク構築支援事業)。

平成21年度から継続して4年目の山形大学男女共同参画室との協働では「託児サポーター養成講座」を開催、大学構内において大学職員や大学院等学生の子育てを支援するため、学生による託児サポート活動を指導した。(山形大学託児サポート支援業務)。

山形市立第七小学校にて「ななルーム」、山形市立金井小学校にて「ほなみルーム」、山形市立東小にて「SUNさんルーム」という相談支援室を開催した。参加者同士の交流の場や子育ての相談の場となった(家庭教育支援者活用業務)。

未就学児のいる子育て家庭への訪問支援「ホームスタートやまがた」では、オーガナイザーを増員して拡充した。利用家庭、訪問件数は増加している。全国や東北のネットワークでの研修機会に積極的に参加したり、原則として月1回のケース検討会や運営委員会でスーパーバイズを受ける他、2月には山形県内の3団体で協議会を立ち上げ、活動の質の維持と向上を図った(先輩ママの家庭教育支援モデル事業)。

東日本大震災後の避難家庭支援の活動は、内容を精査しつつ継続した。東日本大震災後、山形県には被災3県を除くと全国一の避難者が避難した。平成24年1月頃の約13,000人をピークに25年2月には約10,00人がいまだ避難しているとされている。その多くは子どものいる世帯であることを受けて様々な避難家庭支援活動を展開、継続した。①母

子のみが避難、②経済的負担感、③孤立、④不安が高いなどの推察されるリスクの変貌や、アンケート調査結果を受けて、年度途中で活動内容について数回にわたって検討した。

「ままカフェサロン」は、子どもの健全な発達を援助するため午前はプログラム活動(音楽、造形、運動の各コース)中心の内容とし、午後は交流と情報交換、相談の場とした。33回開催し、のべ227組502名が参加した。23年11月、市内3か所に立ち上げ継続的に支援してきた育児サークルは、1つがメンバー卒会、2つが合併して活動することとなった。66回開催のべ526組1140名が参加した。小学生の母親対象の「滝山サロン」は8回開催のべ159名が参加した(山形市委託被災者向けままカフェサロン業務)。

平成24年2月に山形市あかねヶ丘3-8-23に開設、民家でのくつろげる場づくり、相談対応に取り組んだ「ままカフェ@home」は、平成24年度は204日開館、1,477名の来所があった。このうち臨床心理士による相談会「はあとタイム」は23回開催、のべ24名の相談者があった。米沢では、置賜文化センター和室で、毎週木曜日「ままカフェサロン」を開催し、47回開催のべ1,516名が参加した。「はあとタイム」は9回開催、のべ17名の相談者があった。

(公益財団法人日本ユニセフ協会委託山形における避難家庭支援事業)

9月には山形市東原町3-5-7に「福山ひろば」を開設、福島の子と山形の子が交流できる場、グループ活動のインキュベーター、学習プログラム開催などに取り組み、71日開館、676名の来所があった。上山市の「絆サロン」の立ち上げと運営を支援し、4回開催、52名の参加があった。東京、札幌、上越、仙台市の各団体と連携し、各地でままカフェサロンを開催、支援者の情報交換・支援活動やケースの検討等を行った(東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金助成事業2、3期)

山形市内の小中学校のへ転入してきた保護者を対象としたサロンも継続して実施した。東書学校における「SUN・サンルーム」は、12回66名の参加があった。滝山コミュニティーセンターにおける「サロン IN 滝山」は8回147名の参加があった。

学校の長期休暇中には、滝山コミュニティーセンターにおいて「寺子屋塾」を開催し小、中学生を中心に8日開催、476名が参加した。滝山コミュニティーセンター、退職公務員会と連携し、退職教員の皆様のボランティアがのべ92人が活動して下さり心強い連携先となった。

みはらしの丘「はらっぱ館」では交流イベントを開催し、「わくほこ芋煮会」233名参加、「わくほこ雪遊び」86名参加、合計319名の参加があった。

以上、平成24年度の避難家庭支援におけるの参加者数は、総計で6,412名となっている。

それぞれの事業ごとの詳細な報告は、次頁以下のとおりである。